

都市再生整備計画 事後評価シート
第2期 巖原城下町地区

平成27年4月

長崎県 対馬市

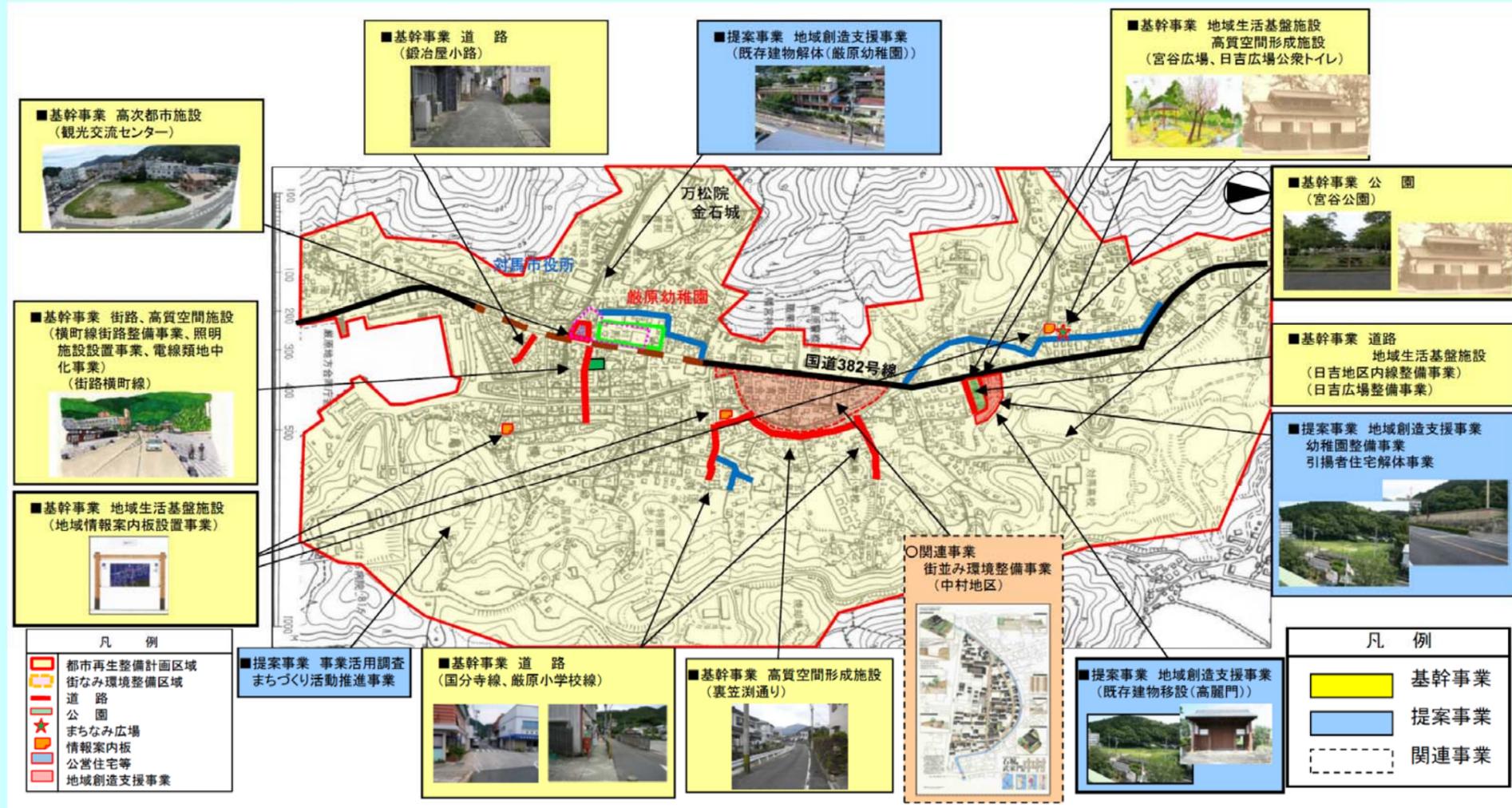
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長崎県		市町村名	対馬市		地区名	第2期 厳原城下町地区			面積	215ha		
交付期間	H22年度～H26年度		事後評価実施時期	H26年度		交付対象事業費	2472.8	国費率	40%				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 道路(国分寺線、厳原小学校線、日吉地区内線、横町線)、地域生活基盤施設(宮内広場、案内板)、高質空間形成施設(照明施設、電線類地下埋設施設、歩行者支援施設) 地域創造支援事業(幼稚園建設事業、既存建物解体・除却)、事業活用調査、まちづくり活動推進事業									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
			道路(裏笠洲通り、第1回)、道路(上宮谷線、第1回)		古道を再生し、街並み景観の同調を図り高質空間形成へと移行するため			なし					
			公園(日吉公園 第4回)		公園と広場は類似的なものであるが、利用形態検討の結果、地域生活基盤へ移行するため			なし					
			公営住宅等整備(高齢者施設、第4回)		福祉施策の変化により事業を削除			なし					
			高質空間形成施設(上宮谷線、第7回)、高質空間形成施設(金石通り、第7回)		現道整備で計画していたが、地域より拡幅も含めた整備見直しの意見があったため街並み整備とあわせ検討することし、事業を削除			なし					
	新たに追加した事業	基幹事業	事業活用調査(「蔵」現況調査、第7回)		個人所有であり、現有するすべての蔵調査が困難となったため削除			なし					
			道路(鍛冶屋小路、第1回)		古からの小路を再生し、街並み景観の向上を図るため			なし					
			高質空間形成施設(裏笠洲通り、第1回)、高質空間形成施設(上宮谷線、第1回)、高質空間形成施設(金石通り、第1回)		歴史的に形成された石塀などと修景を同調させ、地域に即した景観形成を図るため			なし					
			高次都市施設(観光交流センター、第3回)		観光資源となっている施設間を時間を消費しながら回遊できる道路整備を図るため			なし					
地域生活基盤施設(日吉広場、第4回)			整備目標の達成のため、自然・歴史・文化における観光、交流のエントランス機能を有した総合窓口となる施設を追加する			あり (観光交流センターの利用状況を検証するためパンフレット利用を指標として追加する)							
提案事業	地域創造支援事業(既存建物移設、高麗門移設、第7回)		現在の厳原幼稚園のシンボリックなものであり、また近隣にある市指定有形文化財や長崎県指定有形文化財等と一体となって歴史的風情を醸し出す城下町空間を創出し、宮谷、椋原地区周辺で「まち歩き」として広く歴史散策エリアを作り出すため高麗門移設事業を追加			なし							
	地域創造支援事業(既存建物解体・除去、第4回)		改築計画としていたため、公営住宅等整備で解体工事を計画していたが、当該事業を削除したことにより追加			なし							
交付期間の変更	当初	H22年度～H26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	観光客が歴史民俗資料館を訪れる人数	人/年	46,629	H20	58,000	H26	モニタリング	評価値	○	あり	第一期で整備した地域交流センターと相まって観光交流センターの整備や道路、広場の整備等一連の整備により、伝統的な街並み形成が整ってきたことで訪れる観光客や市民の増加が図られた。	平成27年4月
	指標2	観光客が万松院を訪れる人数	人/年	17,404	H20	21,000	H26	---	17,500	△	あり	来訪者数は増加の傾向にあるが歴史民俗資料館と連携した利用が進んでいない傾向が認められる。万松院の前まで来て見学し、入場しない観光客が一定数おり、それが指標の達成度に影響していることが考えられる。	平成27年4月
	指標3	対馬観光物産協会(観光案内)のパンフレット発行部数	部/年	6,095	H20	11,600	H26	---	8,500	△	あり	観光交流センターの完成が最終年度で事後評価時と重なることや、パンフレットに対する周知が進んでいないことから伸び悩みの傾向にあると考えられる。	平成27年度
	指標4	地区内の人の回遊数	人/日	328	H21	394	H26	0	968	○	あり	韓国人観光客が大幅に増加し、ツアー客以外の観光客がカウントされたことで大幅な増加となった。また、主要地方道の整備や地区道路の修景整備、歩道整備により景観や安全性の向上が図られたことで回遊性が高まり、目標とする回遊者数が達成されたと考えられる。	-
	指標5	地区内の店舗数	軒	93	H21	93	H26	88	88	△	あり	指標の対象となる小売店の棟数は減少となったが、共同ビル内の空き店舗での出店や飲食店などの新規出店なども見られることから、事業による一定の効果は見られた。	-
	指標6	幼稚園に対する不満度	%	81	H21	40.0	H26	---	39.9	○	あり	園舎の移築により、駐車場や建物に関する不満度が減少し、老朽施設の更新や駐車場の確保が保護者にとって直接的な利便性や安全性の向上に寄与したことが確認された。	-
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1						モニタリング	評価値					
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップを開催したことで、観光交流センターや街路横町線への関心の高さが確かめられた。 幼稚園の移転により歴史民俗資料館、万松院、交流センター一帯エリアの歴史文化拠点機能が高まった。 幼稚園の移転改築により建物に対する園児保護者等の好印象が高まった。 移転改築した幼稚園のデザインと宮谷広場整備、高麗門移設整備により、中村地区から連続する周辺のまとまりのある歴史的雰囲気形成された。 												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	・交付期間中において各種事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果を上げるために、市役所と地域マネージャーによる住民が協働して、毎年、事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリングを実施する。その結果については、随時、市民に情報公開する。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ・観光の指標として継続的(毎年)把握を行っていくとともに、観測値と事業効果との関連について分析を行っていく必要がある。 ・情報公開については、随時市民に公開することとしていたが、ワークショップ参加者に対する効果に留まり、広く市民に公開できなかったことから、次期計画においては、広く市民に公開することに努める。					
	住民参加プロセス	・整備予定の「街路横町線」と「対馬市観光交流センター」について厳原らしい魅力あるまちづくりに向けたワークショップを開催した ・家庭排水による水質悪化を抑制し中心市街地を流れる河川や海の水質浄化に繋がる運動を支援するため、関係する世帯へのEM菌の配布を行った。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ・ワークショップによる今後のテーマ ①街路横町線の景観の検討 ②街路横町線と観光交流センターが一体となった中心市街地活性化策の検討 ③まちづくり協定と維持管理体制 ・引き続きEM菌の配布を通して、水質浄化と市民の環境への関心の向上を図る。					
持続的なまちづくり体制の構築	・厳原城下町まちづくり整備委員会を核として専門家を招聘しながらワークショップを開催し、景観資産ナショナル・トラスト運動へと積み上げていくなかで、中心市街地ゾーンとしての街並み形成手法や景観協定締結を行った。 ・これを受けて城下町の商店街らしい街並み形成へと繋がっていくような川端通り商店街のファザード改修事業に向けた活動が期待される。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ・ワークショップを通して参加者から様々なまちづくりに関する意見が出され、引き続き厳原城下町まちづくり整備委員会を核とし、景観まちづくりを専門とする方々の協力を仰いでこのような機会を設け、まちづくりへの市民参加を促進していく。						

様式2-2 地区の概要

都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	値	年	値	年	値	年
大目標 「市民・観光客の交流拠点」としての中心市街地の再生 目標1 市民の生活拠点の形成、にぎわいの再生 目標2 交流人口の拡大誘導 目標3 交通環境の改善	観光客が歴史民俗資料館を訪れる人数	単位:人/年	46,629	H20	58,000	H26	68,500	H26
	観光客が万松院を訪れる人数	単位:人/年	17,404	H20	21,000	H26	17,500	H26
	対馬観光物産協会(観光案内)のパンフレット発行部数	単位:部/年	6,095	H20	11,600	H26	8,500	H26
	地区内の人の回遊数	単位:人/日	328	H21	394	H26	968	H26
	地区内の店舗数	単位:軒	93	H21	93	H26	88	H26
	幼稚園に対する不満度	単位:%	80.6	H21	40.0	H26	39.9	H26



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 道路の修景整備や案内板の設置などにより、地区の観光拠点化が目に見える形で進んだが、今後はこれを活用して市街地の活性化につなげていくために市民の参加やイベントの開催などソフトな対応が必要である。 観光交流センターの利用促進に向けて、地域交流センターや周辺施設と連携した様々な仕掛けを検討していく必要がある。 幼稚園跡地について効果的な活用を促進する必要がある。 新しい幼稚園のデザインと宮谷広場整備、高麗門移設整備により、中村地区から連続する周辺のまとまりのある歴史的雰囲気形成されたことを機会にさらに地域と密接な関係を持った地域づくりが必要である。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 城下町としてのまちづくりが具現化してきたことを受けて、今後はこれを効果的に観光の振興、中心市街地の活性化などに波及させていくためにソフト面の対応を図る。 街路横町線の整備に向けて関係者の理解を深めながら推進を図りつつ、横町線に接続する市道についても整備を進め、回遊性を高めていく。 幼稚園跡地を歴史民俗資料館一帯の歴史文化ゾーン形成に向けて効果的に活用を図っていく。 中心市街地の活性化に向けた取り組みを推進する。